

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 10年2月 ～雇用情勢は緩やかな改善が続く

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

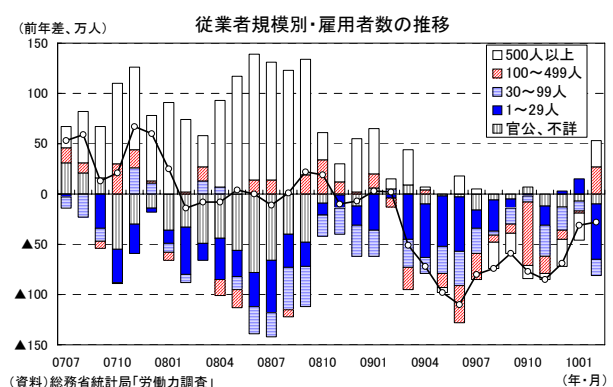
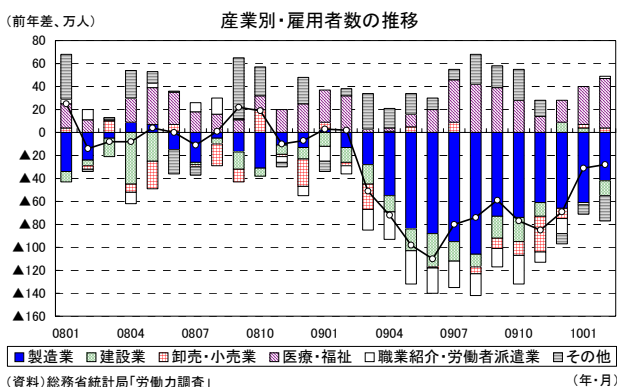
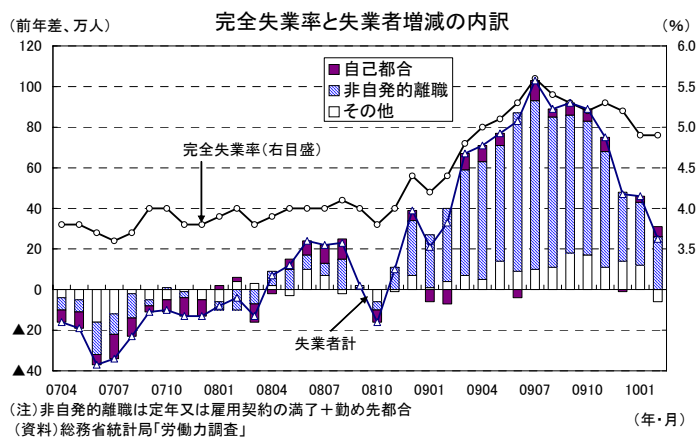
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 失業率は2カ月連続で4.9%

総務省が3月30日に公表した労働力調査によると、2月の完全失業率は前月から横ばいの4.9%となった（ロイター集計事前予想：4.9%、当社予想は5.0%）。

失業者数は324万人となり、16カ月連続で前年よりも増加したが、増加幅は25万人（1月：46万人増）と、ピーク時（09年7月の103万人増）に比べると大きく縮小している。季節調整値でみた失業者数は321万人となり、ピーク時（09年7月）の369万人からは50万人近く減少した。

失業者の内訳を求職理由別に見ると、非自発的な離職による者が前年に比べ26万人の増加（うち勤め先都合が16万人増）、自己都合による者が5万人の増加となった。



雇用者数の内訳を産業別に見ると、製造業の雇用者数は前年に比べ▲42万人の減少と13カ月連続で減少したが、1月の同▲61万人からは減少幅が縮小した。また、医療・福祉は前年に比べ43万人の増加（1月：33万人増）となり引き続き雇用の下支えとなっているほか、減少が続いていた職業紹介・労働者派遣業の雇用者数が前年に比べ2万人増と17カ月ぶりに増加に転じた。一方、

建設業の雇用者数は前年に比べ▲13万人減と3ヵ月ぶりに減少した。

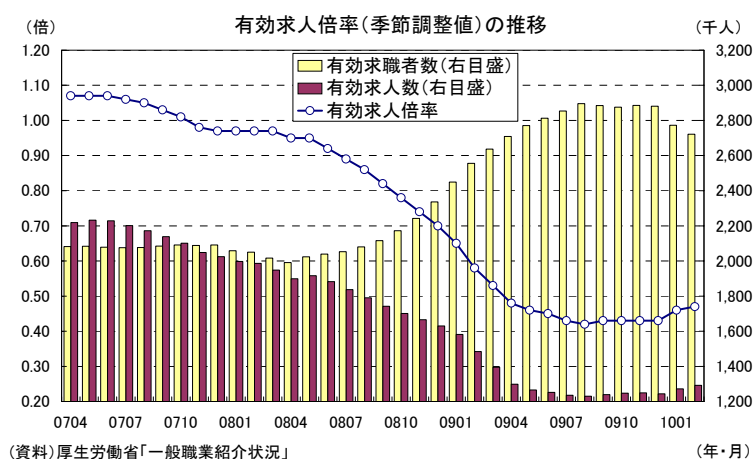
従業員規模別には、1～29人の中小企業の雇用者数が3ヵ月ぶりの減少、30～99人が12ヵ月連続で減少する一方、100～499人、500人以上の雇用者数が増加に転じた。

2. 有効求人倍率は緩やかな改善が続く

厚生労働省が3月30日に公表した一般職業紹介状況によると、2月の有効求人倍率は前月から0.01ポイント上昇し0.47倍となった(ロイター集計事前予想:0.47倍、当社予想も0.47倍)。有効求職者数が前月比▲1.9%と3ヵ月連続で減少する一方、有効求人数が前月比1.5%と2ヵ月連続で増加した。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は0.84倍(1月:0.85倍)となり、7ヵ月ぶりに前月よりも低下した。新規求職者数が前月比0.7%と3ヵ月ぶりに増加する一方、新規求人数が前月比▲0.4%と2ヵ月連続で減少した。

労働需給は改善を続けているものの、企業の求人意欲は依然として弱く、雇用情勢の回復ペースは非常に緩やかなものにとどまっている。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。